

# マイクの取り付けについて

2版 2008年06月18日

## 1. 概要

SRM-10P または SRM-20P で音声認識を行う場合に、マイクを取り付ける筐体（以下、マイク筐体）が音声の認識精度に大きく影響します。

本文では、マイク筐体についてのいくつかの注意事項を解説します。

## 2. マイク素子をマイク筐体表面と同じ高さにする

マイク素子は、マイク筐体表面と同じ高さになるように（Fig2.1 参照）固定してください。

マイク素子とマイク筐体表面との間に空間がある（Fig2.2 参照）場合には、音が反響してしまい認識精度が低下します。

Fig 2.1 マイク素子をマイク筐体表面と同じ高さにする

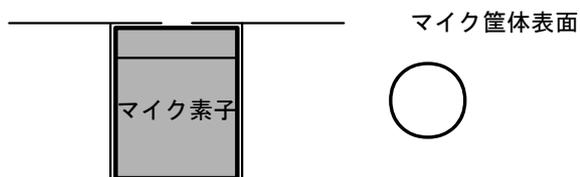
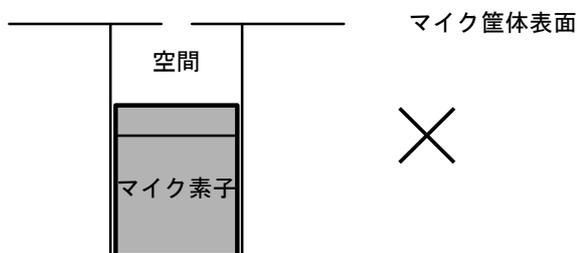


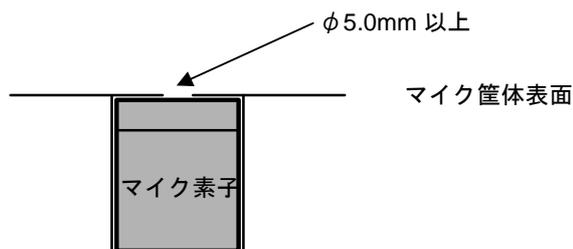
Fig 2.2 マイク素子とマイク筐体表面との間に空間が有る



## 3. マイク素子の前面空間を遮断しない

マイク素子の前面空間を遮断すると認識精度が低下します。マイク素子の前面空間には、マイク筐体に直径 5mm 以上の穴をあけてください。また、マイク筐体の表面は、出来るだけ薄くしてください。

Fig 2.3 マイク素子の前面空間を遮断しない



#### 4. マイク素子とマイク筐体を離す

マイク筐体がプラスチック等の素材で、マイク素子に直接固定されている場合（Fig2.5 参照）、マイク筐体に触った時の雑音や、マイク筐体のきしむ音等の影響で認識精度が低下します。

上記雑音を防ぐためには、マイクとマイク筐体を離す必要があり、具体的には、ゴムまたはスポンジのような吸収性の素材でマイクを囲むことにより（Fig2.4 参照）可能です。

Fig 2.4 マイク素子を吸収性の素材で囲む

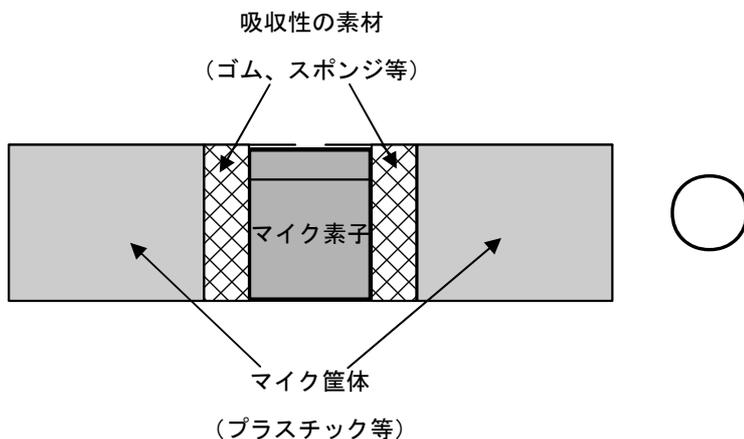
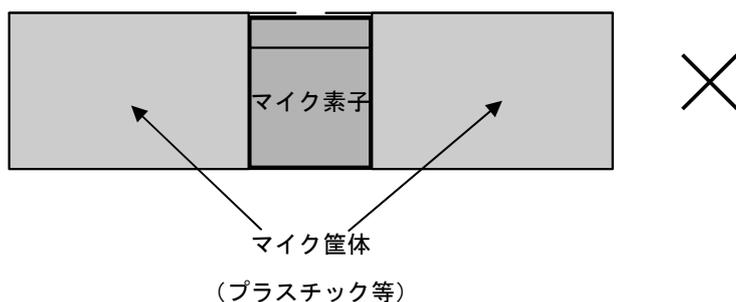


Fig 2.5 マイク素子をマイク筐体に直接固定



#### 5. マイク筐体を振動させない

マイク筐体自体が振動している場合、その振動の影響で認識精度が低下します。

モーター等で振動が起こる製品にマイク筐体を固定する場合には、出来るだけ製品の振動がマイク筐体に伝わらないように固定してください。

#### 【注意】

上記の注意事項は、認識精度を低下させないための対策ですので、必ずしも認識精度が改善されるわけではありません。実際の認識精度に関しては、お客様の仕様に合わせて十分な評価を行ってください。

## ご注意

- ・本文書の著作権は（株）アルファプロジェクトが保有します。
- ・本文書の内容を無断で転載することは一切禁止します。
- ・本文書に記載された回路図およびサンプルプログラム等の著作権は（株）アルファプロジェクトが保有しますが、お客様のアプリケーションで使用される場合には、ご自由にご利用いただけます。
- ・本文書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・本文書に記載されている内容およびサンプルプログラムについての質問等のサポートは一切受け付けておりませんのでご了承ください。
- ・本文書の内容については、万全を期して作成いたしました。万が一不審な点、誤りなどお気づきの点がありましたら弊社までご連絡下さい。
- ・本文書の内容およびサンプルプログラムに基づき、アプリケーションを運用した結果、万が一損害が発生しても、弊社では一切責任を負いませんのでご了承下さい。

- ・その他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。



株式会社アルファプロジェクト  
〒431-3114  
静岡県浜松市東区積志町 834  
<http://www.apnet.co.jp>  
E-MAIL : [query@apnet.co.jp](mailto:query@apnet.co.jp)